



NEWS LETTER

vol.5

発行日 2011.3.10



香川大学 男女共同参画推進室 olive・heart

第1回四国女性研究者フォーラムを開催しました。

香川大学主催「第1回四国女性研究者フォーラム」を徳島・鳴門・高知・愛媛大学の共催で、平成23年2月23日かがわ国際会議場において開催しました。参加者は91名(学内43名学外48名)、内女性58名、男性33名でした。フォーラム開催前には「ALICE in TAKAMATSU」で「ランチ交流会」を開催し37名(学内12名 学外25名)のみなさまにご参加いただき情報交流を行いました。



基調講演「女性研究者として生きる～未来の宝箱～」では、東京大学男女共同参画室アドバイザー都河明子氏が、香川大学とご縁があり、平成18年7月に香川大学工学部石井教授が中心になって実施した女子中高生むけの理系進路選択体験講座「あなたの未来は無限大！女性技術者・科学者からのおくりもの」の取り組みをいっしょに行ったことを紹介。講演の中で、「今、なぜ女性研究者が必要なのか？」日本の素晴らしい科学技術の発展が少子化の中で脅かされていること、その問題を妥結するためには、女性や若手の研究者の活躍が欠かせないことを熱く語られました。また、女性研究者の両立支援として、東大では4キャンパスに保育園を設置したが、それは福利厚生ではなく、大学として優秀な研究者を償還するためのインフラ整備であると説明、企業の取り組みにも触れ、「ポジティブ・アクションの必要性と効果」として女性が

活躍でき、経営成果も良好な優良企業が業績を伸ばしていること、ゴールドマン・サックス・グループが提唱した「ウーマノミクス」を紹介。最後に、黄金の3割という「カウンター理論」を紹介し、組織を活性化させるにはその組織のマイノリティ(少数派)の占める割合が30%は必要であるという理論を基に、今後も女性研究者支援と次世代育成を継続することが重要とまとめました。

ポスターセッションでは、行政も含め男女共同参画に取り組む12団体がポスターを使い取り組みを紹介しました。また、香川出身の初の女性博士保井コノ氏のパネル展示も実施しました。(岡山人権研究所協力)



パネルディスカッション「四国で女性研究者を育む～大学における女性参画のビジョンを語る」では、森田美佐准教授(高知大学)が大学の女性参画を男性と共に、生活者の面を尊重しながら取り組むこと、関泰子教授(四国学院大学)がフィールドワーク系女性研究者の今後の可能性について語り、本仲純子特任教授(徳島大学AWAサポートセンター)が徳島大学の若手の女性研究者に焦点を当てたAWA(OUR)サポートシステムについて解説しました。続いて、本学一井学長が地域ぐるみで取り組んでいる本学の女性研究者支援について説明し、ジェンダーバランスに配慮した職員採用や四国5国立大学による男女共同参画推進宣言などを通じて、優秀な女性研究者の採用を積極的に進めていく意気込みを語りました。秋田美代准教授(鳴門教育大学)は女性研究者として成長するためにはキャリア形成に関する支援が大切であると訴え、最後に小島秀子教授(愛媛大学女性未来育成センター長)が何より女性研究者の数を四国で増やし、主要なポストに意識的につけていくポジティブアクションが重要であるとまとめました。

関係者の皆様のご協力で盛会にフォーラムが開催できましたこと、心より感謝申し上げます。



活発に討議するパネリストの方々

フォーラムのDVDをご希望の方は男女共同参画推進室olive・heartまでご連絡ください。

男女共同参画推進室Webページにてフォーラムの詳細も公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

四国内国立5大学による男女共同参画推進共同宣言



平成23年2月22日、四国国立大学協議会において、四国女性研究者フォーラム開催に先駆け「女性研究者による優れた教育研究活動の支援に努めます～四国内国立5大学による男女共同参画推進共同宣言～」が四国内5国立大学学長によって宣言されました。2月23日の第1回四国女性研究者フォーラムの開催に先駆け、女性研究者の活躍を願う香川大学一井眞比古学長より提案され、四国国立大学協議会の承認をうけ宣言されました。

女性研究者による優れた教育研究活動の支援に努めます ～四国内国立5大学による男女共同参画推進共同宣言～

私たち四国に位置する国立5大学は、地域に根ざした大学として、特色ある世界水準の教育研究を推進するとともに、地域の発展の基盤となる人材の育成、文化芸術、産業、医療等の振興、充実への貢献に努めています。

男女共同参画基本法制定以来10年を経て、産業構造の変化とともに、女性は社会経済活動等に積極的に参画し、性別にかかわらず活躍の場を広げています。特に急速な少子高齢化が進む四国地域では、女性の一層の参画が社会・経済活動等の維持・発展で不可欠となっています。

このような中、私たちは、女性研究者、女子学生の積極的な活動は、多様な視点や発想を取り入れ、教育研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮する上で極めて重要であり、より多数の優秀な女性研究者、学生が意欲的に教育研究に取り組むことが各大学、ひいては四国地域の今後の発展に大きく寄与すると認識し、全国の才能溢れる女性が四国の地にいざなわれ、この地で活躍することを強く期待します。

このため、私たちは、各大学において女性が教育研究において一層活躍できる環境を重点的に整備するとともに、次世代を担う女子学生の育成に努力し、さらに、古来より遍路道で結ばれた四国における大学、研究機関、地方自治体、企業、市民との連携を強めることにより、男女ともに個性と能力を発揮できる大学と社会の実現に貢献することを宣言します。

〈私たちの重点的な取組〉

1. 優秀な女性研究者の数の拡大を目指し、教員公募において全国からの女性研究者の応募を期待し、優秀な女性研究者を積極的に登用すること。
2. 女性研究者の優れた教育研究の取組を積極的に支援すること。
3. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制を確立すること。
4. 大学の構成員の教育・研究・就業と家庭生活との両立を支援すること。
5. 女性のキャリア形成と次世代の育成にかかる取組を充実すること。
6. 大学運営における意思決定過程での女性の積極的な参画を推進すること。
7. 男女共同参画の推進にむけた大学をはじめとする関係機関のネットワークを構築すること。

平成23年2月22日

徳島大学長	香川 征
鳴門教育大学長	田中 雄三
香川大学長	一井 眞比古
愛媛大学長	柳澤 康信
高知大学長	相良 祐輔

今後は女性研究者の積極的な登用に向け、公募の広報等においてもぜひご活用ください。



宣言文を読み上げる一井学長

工学部 石井先生 次世代の女性研究者への思い

四国女性研究者フォーラム基調講演で、本大学の次世代育成の取組みが紹介されました。今回はその立役者、工学部知能機械システム工学科の石井明教授に、男女共同参画と次世代育成への思いについて伺いました。



石井 明 教授

Q：次世代育成に取り組まれたきっかけは何ですか？

2005年3月に高松（e-とぴあ・かがわ）で開催した精密工学会画像応用技術専門委員会のワークショップに当時日本女子大学理学部小舘香椎子教授（現在、科学技術振興機構男女共同参画主監）を特別講演で呼び出したのが始まりで、その翌年の2月同画像応用技術専門委員会に男女共同参画の検討のためのワーキンググループを設置し、7月に高松で「あなたの未来は無限大！女性技術者・科学者からのおくりもの」というイベントを展開しました。小舘研卒の塚田由紀氏（交通安全環境研究所研究員）に高松市立多肥小学校で特別講義をお願いしました。また、e-とぴあ・かがわでスタッフの大木友梨子氏の「夏休み自由研究先取り講座“動くアルバム作り”」を行いました。小学生の時期にインパクトのある本物に触れる体験が何より重要だと思います。この時、女子中高生向けの理科系進路選択の紹介ブースも設置。「科学技術と男女共同参画—楽しい豊かな生活を目指して—」をテーマにシンポジウムも行いました。

Q：ネットワークづくりに大切なことは？

「男女共同参画」という固い切り口の時代は終わっていると思います。山形では20代の女性たちがGIRL LOVEs YAMAGATAのプロジェクトを活発に行っています。県内外の山形女性がつながっちゃおうという企画。おもしろければ人は集まる。そこに崇高な理念があれば続いていく。お金をかければいいわけでもない。コアになるメンバーが期待するわくわくする企画を立て、楽しくしようとしたら次につながっていくのです。参加者が笑顔で帰っていったら成功だと思う。工学部のガールズパーティの取組みも女子学生にとってはうれしいことだし、若い女性の先生が引っ張っていることもいいと思う。今度は一歩踏み出して、地域にどんどん発信して、企業の社長も巻き込んで定着させていったらいいと思います。

Q：次世代の女性研究者への思い

研究者を育てることは地域ではなかなか難しいのだと思います。だから小学生の時から本物に触れることが大切。今は10年後の日本を思い描ける人材が必要だと思います。人が触れ合えないインターネットの時代だからこそ、若者に体で本物を感じ取ってほしい。文化の中で鍛えられている土壌があるからいいものが作り出せる。社会が混迷する今の時代、女性の出番です。長丁場の取組みはやはり女性なのではないでしょうか。男女共同参画を狙うのではなく、必然として女性が活躍していく時代になっていくと思っています。女性が元気になれば男性も元気になる。女性が活発になれば男性も活発になる。女性が真剣に考えれば男性も真剣に考える。



学習会「豊かな学童保育の可能性」 医学部ワークライフバランス推進室共催

地域の社会資源について意外と知らないものです。今回は小学1年生になったらお世話になる学童保育の制度や取組みについて学びます。平成25年度には「子ども子育て新システム」が導入され子育て支援の制度も変わることが予想されます。子どもさんが就学を迎える教職員の皆様、ふるってご参加ください。



期日：平成23年3月15日16:00～17:30

場所：香川大学医学部管理棟4階会議室1

（木田郡三木町大字池戸1750-1）

対象：本学教職員・ワークライフバランス推進室相談員

内容：「豊かな学童保育の可能性」

講師：角野いずみさん（津山市北小ひなづるクラブ指導員・岡山県学童保育連絡協議会事務局次長）
青野雅世さん

（学童保育保護者OB・岡山市政田ポプラくらぶ指導員・岡山県学童保育連絡協議会副会長）

アドバイザー：

高松市子ども未来課 石原敏滋 係長
高松市教育部生涯学習課 長門 等 係長
三木町教育総務課 田岡和代子 副主幹兼係長



ご参加希望の方はこちらへお申し込みください。

お問い合わせ：男女共同参画推進室

087-832-1055（内線1055）

sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

全学向け講演会「安心して働ける・学べる安全な環境作り」開催

「安心して働ける・学べる安全な環境作り～セクハラ・パワハラ・デートDV対応～」

教職員や学生にとって、安全な職場・学習環境は、安心して修学・就業を続けていくために欠かせないものです。そのため、大学には安全な環境整備に対する配慮が求められ、性暴力（セクシャルハラスメント・デートDV等）を未然に防止する責任があると考えられています。

井口博弁護士は、多くのセクシャルハラスメント事件を手掛けて来られました。事例に触れながら、セクシャルハラスメントの定義や規制に関連する法律、防止措置の責務、組織としての解決法、学生を含めた個人がリスクを回避するための対応等についてご教示いただきます。また、若者のデートDVについても、その実態や未然防止に向けての対策をお聞きします。

今回の研修会はハラスメント相談の担当者の研修も兼ねております。セクシャルハラスメントは、その兆候を見逃さず、迅速に対応することが重要です。二次被害を防ぎ安全に相談を受けるための基礎知識を学びます。

日時 平成23年3月17日(木)
13:30～15:10

講師 井口 博 弁護士

場所 幸町キャンパス 研究交流棟5階
研究者交流スペース

対象 全学教職員・学生及び関係者
(ハラスメント相談員研修を兼ねる)

ご参加希望の方は下記までお申しください。

お問い合わせ：男女共同参画推進室
087-832-1055 (内線1055)
sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

講師プロフィール

井口 博 (いぐち ひろし) 弁護士 【東京ゆまにて法律事務所】

一橋大学法学部卒。ジョージタウン大学ロースクール大学院修了。
1978年裁判官 任官(横浜地裁判事補、奈良地裁判事補、法務省訟務検事、大阪地裁判事を経て)。1989年弁護士登録。
1996年東京ゆまにて法律事務所開設。
第2東京弁護士会所属。



第2回男女共同参画推進委員会

男女共同参画推進体制についても、ジェンダーバランスに配慮します！！

第2回男女共同参画推進委員会が3月1日開催されました。本年度の男女共同参画推進事業についてコーディネーターが説明し承認されました。本年度の事業成果としては、基本理念と基本方針の策定、育児に取り組む教職員への配慮事項が確認され、香大っ子サポーター等の整備と、休日のセンター入試業務への配慮がなされたことです。また研究補助者を試行的に配置しました。今後、3月15日社会資源学習会「豊かな学童保育の可能性」と3月17日全学向け講演会「安心して働ける・学べる安全な環境作り」の取組みが予定されています。続いて平成23年度男女共同参画推進事業計画について協議し承認されました。推進体制の見直しでは、両性の視点を重視し、現行の支援員育成員のジェンダーバランスの改善、推進委員会への室員の参加を計画しております。啓発については、教員が集まりやすい教授会の前後を利用した研修会の開催、各学部学生に対する啓発講座の実施を計画しております。そして、女子中高生の理系の選択を進めるため、オープンキャンパスを利用した女子学生の相談窓口の設置等も実施する予定です。女性も男性も、教職員が生き生き活躍し働きづつけることができる香川大学を目指し取り組みを進めてまいります。

宮内副室長より異動のご挨拶

一井学長自らの出馬により臨んだ人生初の競争的資金ヒアリング。控室では四国の国立大学の各学長がおられる。ヒアリング練習にも余念がない。まずい、ここでこけたら男女共同参画で大学が赤っ恥をかくこととなる、なんとか頑張らねば。学長の力強い説明の後、「女性研究者の意見を踏まえているのですか！」等の審査員の質問連発。知識を総動員して何とか回答。

こんな感じで採択された「女性研究者支援モデル事業」が、私の先祖伝来の地の大学へ全国から女性研究者が集い、活躍する一助となれば幸いです。

短い期間でしたが皆様に大変お世話、ご協力をいただきましてありがとうございました。益々の発展とご活躍を祈念します。

宮内先生、大変お世話になり、ありがとうございました。

香川大学 男女共同参画推進室 olive・heart



香川県高松市幸町1-1 北5号館1階
TEL: 087 (832) 1055
FAX: 087 (832) 1057
電子メール: sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp
HP: <http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/>